

今月の  
テーマ

## 気管支炎



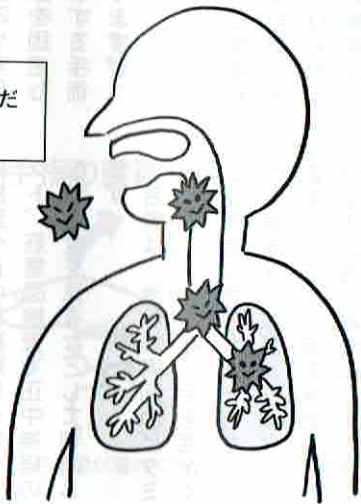
たん 痰の絡んだ咳がなかなか治まらない……そんなときは気管支炎を発症しているかもしれません。  
気管支炎の症状の特徴や治療法についてお伝えしていきましょう。



[気管支炎とは]

ウイルスや細菌が気管支に感染して起こる

症状

熱、痰の絡んだ  
ひどい咳

### 風邪と気管支炎の 違いって何？

咳や痰が出て呼吸が苦しくなる……このような症状が出ると風邪だと思ってしまうがちですが、実は気管支炎を発症しているケースがあります。

風邪と気管支炎の主な違いは「炎症が起こる場所」です。風邪はウイルスや細菌によって鼻腔・咽頭・喉頭が炎症を起こした状態です。

一方、気管支炎は、気管支（喉から左右の肺へと気管が枝分かれしている部分）に炎症を起こした状態を指します。さらに気管支の終着点である肺胞に炎症が起きた場合は、「肺炎」となります。

## しつこく長引くその咳、 「気管支炎」かも!? 早めに受診しましょう!

症状を比較すると、風邪の場合、ウイルスなどの活動場所が比較的狭い範囲に限られるため、咳や鼻水などの局所的な症状が多く見られます。一方、気管支炎の場合は、風邪と同じように鼻水や頭痛などの症状の他、気管支の粘膜にも炎症が起こるため痰の量が増加します。首・背中の痛みや関節痛、下痢、嘔吐を伴うことも。

ただし、風邪と気管支炎の症状には重複する部分も多く、明確に区別することは困難です。風邪だと勘違いしてそのままにしていると、症状が悪化して肺炎を併発してしまうケースも。咳などの症状が長引いたり、痰が出るようなら一度病院を受診したほうがよいでしょう。

### 急性・慢性気管支炎、 それぞれの特徴とは？

気管支炎には「急性気管支炎」と「慢性気管支炎」があり、それぞれ原因や症状が異なります。二つの気管支炎の特徴を紹介しましょう。

## ●急性気管支炎

急性気管支炎の多くは、風邪の炎症が気管支へと及ぶことで発症します。風邪と同様にライノウイルスやインフルエンザウイルス、RSウイルス、アデノウイルスなどが原因となっており、細菌の場合はインフルエンザ菌や肺炎球菌、マイコプラズマなどが原因となります。急性気管支炎になると風邪の諸症状の後に、強い咳や痰が現れますが、正しく治療すれば1週間ほどで症状は治まります。

## ●慢性気管支炎

比較的短期間で回復する急性気管支炎に対し、痰を伴う咳が1年間に3カ月以上続いている状態が2年以上続く場合は、「慢性気管支炎」と診断されます。慢性気管支炎になる最大の原因が喫煙です。他にも排気ガスなどの大気汚染やアレルギー体質が関係していることもあります。慢性気管支炎が進行すると気道の壁が厚くなり内部が狭くなるので、ちょっとした動作でも息切れするようになってしまいます。



教えてくださったHEALTH識者



目黒通りハートクリニック院長

安田 洋さん

医学博士。大規模な病院で内科・小児科から救急医療まで幅広く従事。主に生活習慣病・心臓病を専門として、診療だけでなく、セミナー等でも活動中。

### 症状改善のためにできることは？

続いて急性・慢性気管支炎の治療法を紹介しましょう。

#### ●急性気管支炎の治療法

原因はウイルスであることが多いため、インフルエンザウイルスを除いて特別な治療薬はありません。したがって治療法としては、安静にすることや水分・栄養補給といった対症療法が中心になります。細菌感染の場合は適宜、抗菌薬を使います。

#### ●慢性気管支炎の治療法

たばこが原因と考えられる場合は、すぐに禁煙をすることが重要です。部屋の空気をきれいに保つために空気清浄機を置くのもよいでしょう。

また薬物療法として、痰を切りやすくする去痰薬や、気管を広げて呼吸しやすくする気管支拡張薬などを使用します。痰が

黄色くなり、熱が出た場合には、抗菌薬が使われることもあります。

病院で行う治療に加え、日頃から自分でできる対策もあります。腹式呼吸を行って呼吸筋を鍛えると、それまで使っていない肺の機能が引き出され、息苦しさが軽減されます。

また、十分な栄養補給も大切です。症状が進み食事を取るのがつらくなつた場合は、1回に食べる量を減らして回数を増やしてみましよう。さらに散歩など適度な運動を毎日続けると、肺機能の維持や改善に効果があります。

### 症状に合わせた診療科選びが大切。

気管支炎が疑われる場合の病院選びはどうすればよいのでしょうか？ 気管支炎の原因

はウイルスや細菌、喫煙、アレルギーなど多様であることから、症状や状況によって専門とする診療科が異なります。

風邪に似た症状で咳とともに発熱などがある場合は内科、症状が長引いたり、息苦しさが出てきたりした場合は呼吸器科を受診します。

病院では、主に咳や痰といった臨床症状から診断を行います。発熱などの症状が長引く場合には、肺炎の合併を調べるため、胸部エックス線画像や胸部CTによる検査で状態を確認することもあります。

気管支炎は、症状だけでは他の病気と区別しにくいケースがある病気です。同じように咳が出る病気には肺炎や肺結核、肺がんなど、重症化すると危険なものもあるので、気になることがあれば早めに病院に行くようにしましょう。



### 今月のプラスα知識

気管支炎になりやすいのは風邪と同様、空気が乾燥しやすい冬。室内の加湿や保湿、手洗い、うがいなどで予防しましょう。

